

## 「第41回群馬大学共同教育学部附属特別支援学校公開研究会」 参会者アンケートに対する回答について

### 【実態調査表・研究基調等のデータについて】

- ・実態調査票について、詳しく知りたかったです。
- ・貴校で作成・活用していた実態調査票が新学習指導要領に即した観点で、わかりやすかったです。データとかをいただくことはできますでしょうか。
- ・事前実態調査（エクセル）の取り組み（児童生徒達の学びの過程の変容）を見ていきたいなと思いました。
- ・研究基調の資料がPDFでいただけるとありがたかったです。
- ・研究概要の資料もいただきたかった。

（回答）どちらもHP上で公開（配信）する予定です。

本校のHP 〈本校の研究〉→〈基幹研究〉にアクセスしていただき、PDFファイルをご覧ください。（12月23日以降に更新予定です）

### 【研究内容について】

- ・各教科等を合わせた指導についての今後の取組として、どのようなビジョンがあるのか知りたいと思いました。

（回答）年度末に本校のHPにて、「実践のまとめ」をアップします。こちらでご紹介できればと思います。更新をお待ちください。

### 【公開した授業に関する質問】

〈小学部 算数〉

- ・定着を図るために、ゲームを繰り返し行っていました。本校の児童だと飽きてしまうなど思ったのですが、工夫した点はありますか。教えてください。（県立特別支援学校）
- ・示されていた指導計画に実態として沿いにくい児童の扱い（いるようであれば）をどうしているかなど、深掘りできるとより参考になったかなと感じました。（県立特別支援学校）

（回答）

- ・量のわかりやすい容器からわかりにくい容器、直接比較から間接比較のようにゲームを少しずつ発展するように計画を立てていたため、同じゲームであっても1週間ずつ変化を持たせるようにしていました。また、「水を集めないと水槽に入った魚が干からびてしまうからみんなで集めて助けよう」という動機付けを行い、ゲームの導入段階で容器に水を入れる（集める）必然性をしっかり持たせるようにしました。
- ・指導計画上の「言葉を用いて比べる」など、言葉だけでは示しきれない児童はいました。ただ、それぞれの児童にとって比べるというのはどういうことなのか（O君であれば、多い方をじっくり見る、指でトントンと触って伝えるなど）一人一人の具体的な姿を想定して活動を行うようにしました。

(中学部 国語)

- ・質問を2点お願いいたします。1点目は、なぜ、川柳ではなく俳句を教材としたのか。  
2点目は、事前の授業風景では動画を流してテーマに対する想起を図っていたが、それはなぜか。  
写真やイラストにしなかったのはなぜか。以上2点です。(県立特別支援学校)

(回答)

1点目

- ・五・七・五のリズム＝はいく と理解している生徒がいたため、川柳ではなく俳句としました。
- ・季語について表現の幅を広げる(自由度をもたせる)ために「必ず入れないといけない」とはしませんでした。言葉から季節を感じたり、季節を表す言葉を意識的に用いて表現したりしてほしいという思いがあり、俳句の良さとして季語の指導も行いたいと考えたためです。

2点目

- ・経験したことをより詳しく思い出し、創作に生かすようにしたかったためです。
- ・「聞こえた音」や「聞こえた言葉」にも着目して言葉を探ることができるようにしたかったためです。

(高等部 保健体育)

- ・可能であれば以下2つの質問を伺いたいです。①なぜバスケットボールを選んだのか?②考察(評価)で定量的な評価基準があればお教えください。よろしく申し上げます。(事業所)

(回答)

①バスケットボールを選んだことについて

学習指導要領を基に、保健体育科のA「体づくり運動」から「保健」までの領域を学習できるように、年間の計画を立てています。その中の一つの期間として、E「球技」を行いました。

球技は、ゴール型、ネット型、ベースボール型などの内容がありますが、その中でも、ゴール型、バスケットボールを実施しようと考えた理由は以下の通りです。

学習前の生徒の実態を見て、次のように考えました。

- (1) 昼休みに友だちとバスケットボールをして遊ぶ様子が見られ、関心が高い生徒がいる。一方で、ネット型の経験があるが、ゴール型の経験が少ない生徒に経験を積んでほしい。
- (2) バスケットボールの経験値が様々な生徒の集団でスポーツを行う中で、チームの友だちの動きを見ながらボールを出す方向や速度を工夫したり、味方の動きに合わせて自分の動きを判断したりする経験を積んでほしい。
- (3) チームでボールをつなげることで得点を取るバスケットボールは、チームで得点を取ったことを実感しやすいと考えた。また、得点を取るために、個々の技能の向上やチームで意欲的に取り組むことができると考えた。

以上の点から、友だちの位置や動きから状況を判断して、走りながらボールを投げたり、捕ったり、自分からボールを受け取るための動きを行う活動として、ゴール型のスポーツで、パスをつなぐバスケットボールを選びました。また、卒業後に生徒たちが運動することへつなげるために、数種類の球技からバスケットボールを選びました。

(回答)

②考察について

生徒の実態から「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の目標を立て実践しました。評価をするにあたっては、授業の様子を動画で撮り生徒の動きを見て、想定する生徒の姿と実際の姿にどの程度差異があるかを確認することで考察としました。また、定量的な評価としては、タイマーを使用して、一定の時間でのサーキットで、シュートがリングに何回当たったか、何回入ったかなど、個人での得点を付けました。単元の後半には、サーキットでの得点をチームで競うようにしました。

想定する生徒の姿を考える際には、

- (1) 第3次のバスケットボールの試合をしている生徒たちの姿を思い浮かべる
- (2) 第2次と第1次で必要なことを考える(技能の獲得、ルールを理解など)
- (3) 第2次と第1次で必要だと考えたことが達成できている姿を思い浮かべる

という順番で考えました。その中で、学習指導要領に示されている指導事項や、生徒が近い将来、社会人になることを考慮して、どんな力が必要となるかを決めました。

回答は以上となります。ご質問やご意見、ありがとうございました。今後とも本校の研究についてよろしく願いいたします。